

Q

中学1年生男子生徒の父親です。私の息子は、5歳のときに発達障害がある(知的発達に遅れはない)と診断されました。特別支援学級への入級も考えましたが、本人が「みんなと一緒にの学級がいい」と言うので、通常の学級に進学し、現在に至ります。5月までは、新しい生活にも何とか慣れ、頑張って登校していたのですが、6月頃から、登校をしづらくなってきました。朝になると、「お腹が痛い」「今日は学校に行きたくない」と言うようになりました。理由を尋ねても、ただただ「痛い」「行きたくない」を繰り返すばかりで、明確な答えは返ってきません。現在は、週に一度くらいのペースで学校を休んでいます。だんだんと学校へ行かない日が増えていくのではないかと心配しています。

A

中学校生活という新しい慣れない環境の中、お子さんは頑張っておられたのですね。

一つ確認しておきたいことは、発達障害があるから、必ずしも不登校になるわけではないということです。しかし、「相手の気持ちや状況を読み取って行動することが苦手である」「感情のコントロールが苦手である」などの発達障害の特性により、友達と言い争いになってしまったり、どのように振る舞えばいいのかわからなくて不安になったりしたことはあったかもしれません。また、自分の取った言動に対して、先生や友達に怒られたり、注意されたりして、「どうせ自分はだめなんだ…」と、自己肯定感を下げってしまうこともあったかもしれません。そのような経験が繰り返される中で、気分が落ち込んでしまったり、腹痛などの身体症状が表れたりすることも考えられます。それが、登校しづらにつながることもあるでしょう。

## 発達障害のある子どもが登校をしづらくなりました。 どうしたらよいでしょう…。

### ① 登校しづらの理由を探る

お子さんが、とりあえず学校に行けるようになればいいという対症療法的な対応だけでは、解決に向かわないこともあります。なぜ登校しづらという行動を取っているのかという理由を探ることが大切です。例えば、先生や友達の思いがうまく読み取れなくて、人間関係に疲れてしまったことが理由であるならば、絵や吹き出しなども使いながら、お子さんや相手の気持ちを分かりやすく伝えるやりとりをすることなどが考えられます。やりとりを通して、お子さんは、気持ちのすれ違いや勘違いに気付いたり、自分の気持ちを聞いてもらえる安心感を得たりすることができるのではないのでしょうか。このように理由を考えて支援していくことで、お子さんの気持ちに寄り添った対応になっていきます。

### ② 今、できる支援を考える

理由が分かりやすい場合には、前述したように適切な支援につながりやすいのですが、場合によっては、理由を特定できないこともあるでしょう。そのようなときには、まず、心の安定を図りましょう。お子さんにとって、ありのままの自分を受け入れてくれる人とのつながりは、何にも勝る心のエネルギーとなります。また、できない自分に傷ついているのであれば、できるからよい、できないから悪いという価値観だけではないことを丁寧に伝えていきたいものです。目標に向けて頑張った過程や、前回よりもできるようになった成長をたくさん褒めることで、苦手なこともあるけれど、いいところもあるんだと、お子さんが自分を好きになれるように言葉をかけていけるといいですね。

### ③ チームで取り組む

学校へ行きづらいお子さんの対応には、相当のエネルギーを要します。お父さんの心と体にも元気とゆとりが必要です。一人で抱え込まずに、学校や地域の方、相談機関としっかり連携をとって、チームで支援していきましょう。支えてくれる人がいることに気付くと、大変心強いものです。